

SNAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

No.51 2020. 7

今月のテーマ：平和を祈る



マケンガさんの目に映る空とアカシアの木



主イエス

この 21 世紀

人種差別や戦争、貧困で満たされているこの世界で、私はあなたに向かって祈ります。

すべての民族、国籍、この社会状況の人々が、あなたの愛で満たされますように。

この世界が平和のオアシス（憩いの場）になって

「ここで生きるのはなんと美しいことでしょう」と言えますように。

平和の君よ、私たち皆を平和の働き人にしてください。

聖霊に助けられて、この世が利己主義、民族差別、不和に勝つことが出来ますように。

それによって、私たちの中に、私たちの間に、又全世界に平和が支配するようになるでしょう。

より正義で平和的、又兄弟姉妹的な世界になりますように。

アーメン （和訳：原文フランス語）

ジャン・クロード・マケンガさん（コンゴ民主共和国より）

カトリック大阪大司教区 社会活動センター

シナピス 

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784

FAX 06-6920-2203

E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

巻頭言

「Let There Be Peace on Earth」 (世に平和があるように)

船員司牧担当

エリック・バウチスタ・デ・グスマン

イエスが死者の中から復活されたその日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。(ヨハネ 20:19～20)

イエスのご受難と十字架上の死が弟子たちに不安と恐怖をもたらしたが、三日目に、そのご復活は彼らに心の平安をもたらした。3年間、彼らとずっと一緒におられたイエス、特に、大変なときと危険なときに慰めてくださった主イエス・キリストが復活して、もう一度その生きておられる姿として見られるのは、彼らにとって、大きな励みだった。

わたしたちは新型コロナウイルス感染の恐れの中に、今生きている。この禍にどのようにして立ち向かって生きるのがわからず、わたしたちの心が不安と恐怖でいっぱい。復活されたキリストの平和を思い出し、コロナウイルスをはじめ、この世の様々な試練と一緒に乗り越えよう。自分でできることをし、アッシジの聖フランシスコの平和を求める祈りのように、わたしたち自身も、神様の平和の道具になるように、心から一緒に祈ろう。

わたしが小学生のときに、ミッションスクールであった小学校で良く歌っていた曲があった。「Let There Be Peace on Earth」
という曲だ。英語の歌詞と自分でしてみた和訳も、紹介させていただく。
(次ページに掲載)



今月のページ

■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 3 時報7月号より
- 7 Okinawa Lives matter 又チドゥタカラ
- 8 薬物依存の原因は薬物ではない
- 9 子どもたちに伝えたい平和
- 10 曼珠沙華と紀州の茶粥③
- 11 教えてください～！！第四弾！
- 13 みんなの掲示板
- 14 沖縄とわたしたち
- 15 憲法がかわったらどうなるの？
- 16 シナピスの風
- 17 あとがき

■ チラシ・ご案内 ■

- ・シナピスの風
- ・7月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・戦後75年司教団メッセージ
- ・信徒の会学習会
- ・シナピス工房 夏のカタログ
- ・映画案内（一部の地域を除く）





LET THERE BE PEACE ON EARTH

世に平和があるように



Let there be peace on earth
And let it begin with me.
Let there be peace on earth
The peace that was meant to be.

世に平和があるように。
その平和がわたしから始まるように。
初めからあったはずその平和を
この世にあるように。

With God as our Father
Brothers all are we.
Let me walk with my brother
In perfect harmony.

すべての人が我々の兄弟であり、
神様が我らの父である。
完全な調和のうちに
兄弟とともに歩ませてください。

Let peace begin with me
Let this be the moment now.
With every step I take
Let this be my solemn vow.

平和がわたしから始まるように、
その始まりの瞬間を今にしよう。
わたしが歩むすべての一歩とともに
これがわたしの聖なる誓いとなるように。

To take each moment
And live each moment
In peace eternally.
Let there be peace on earth
And let it begin with me.

平和のうちに、永遠に
それぞれの瞬間を大切にし、
そして、それぞれの瞬間を良く生かす。
世に平和があるように。
その平和がわたしから始まるように。



イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かちあうことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

社会福音化部門担当司祭をご紹介します！

酒井俊弘 補佐司教

教皇フランシスコは昨年訪日した際に次のように述べました。

「(わたしたちの)使命は、小さな家庭、職場、社会、どこであれ、置かれた場所で、神の国のパン種になるよう駆り立てるのです。聖霊が人々の間に希望の風として吹き続けるための、通気口となるよう駆り立てるのです。天の国は、わたしたち皆の共通の目的地です。それは、将来のためだけの目標ではありません。それを請い願い、今日それを生きるのです。病気や障がいのある人、高齢者や見捨てられた人たち、難民や外国からの労働者、彼らを取り囲んで大抵は黙らせる無関心の協で、今日それを生きるのです。彼らは皆、わたしたちの王、キリストの生きる秘跡なのです」。(長崎県営球場 2019 年 11 月 24 日)教区における聖霊の通気口となる担当司祭の皆さんをご紹介します。その聖なる働きに期待し、祈っています。

なお、新設された新福音化委員会については、次号でご紹介いたします。



よろしくお願いします！

社会福音化部部門長・カリタスジャパン担当
シナピスセンター長 松永 敦

「カリタスジャパン」担当者として 4 年目になり、この度シナピスセンター長を兼任させて頂くことになりました。教区の皆様をはじめ、松浦謙神父様とシナピスの職員の皆様と力を合わせて、委ねら

れた使命を果たしていきたいと思ひます。

み言葉から現実の社会を読み解くこととは反対に、現実の社会のうちにみ言葉を読み取るということもあります。谷間に置かれた人々に目を向け、心を砕き、連帯し、祈りながらともに歩んで行くことは後者に当たると思ひます。いつの時代も谷間は存在します。そして、そこには声にならない声であえいでいる人々がいます。ですから、私たちの営みは次の聖書の箇所の実現でなければならないと思ひます。主の降誕やマリア様の祭日などに度々朗読されるイザヤ書 9 章です。

「闇の中を歩む民は、大いなる光を見 死の陰の地に
住む者の上に、光が輝いた。彼らの負う軛、肩を打つ
杖、虐げる者の鞭をあなたはミディアンの日のように
折ってくださった。」(1,3 節)

社会の福音化をめざして

正義と平和・難民移住移動者担当
シナピス副センター長 松浦 謙

この度大阪教区における「正義と平和」と「難民移住移動者」の担当司祭の任命を受けました。これらの活動をまとめる社会福音化部門といわれるセクションの目的は、ごく簡単に

いえば、福音の教えである「隣人を自分のように愛しなさい」という愛の掟を、教会共同体として実践していくことだと言ってよいでしょう。

“隣人”とは自分の生活圏の中で出会う身近な人たちのことですが、わたしが直接会うことのできない人々も隣人愛の対象です。ですから福音化とは、すべての人のいのちが大切にされる社会を造り上げていくことといっても良いと思ひます。そのためには、正しい知識と情報に基づいた判断が求められます。わたしは 3 年間カトリック新聞社で働きましたが、メディアを通して社会の現実を理解することの大切さを学ばせてもらいました。これまでの経験を活かしながら社会の福音化というわたしたちの使命を果たせるように努めて参りたいと思ひます。

部落差別人権委員会の担当司祭への任命を受けて

部落差別人権担当 長崎 壮



2015 年に司祭叙階の恵みを受け、これまで河北ブロックでの司牧と大阪北地区の養成コースの担当などをしてきました。

前田大司教様から社会福音化部門の部落差別人権委員会の担当司祭任命を受けたときは畑違いのような気がして戸惑いも感じましたが、昨年 5 月に所属するクラレチアン会の黙想会において部落差別問題と長い間取り組んでこられた福音の小さな兄弟会の太田勝神父様の指導を受け、そういった社会問題に関わっていく大切さをあらためて自覚させられました。そのことを思い出すと、神様はしっかりと準備期間を与え、あらたな使命へと派遣して下さったことと受け止めています。皆様の祈りと御指導のもと、福音の喜びに満ちた大阪教区になるよう努力したいと思ひます。

出会いは奇跡

外国人司牧担当 デンニ・ワユディ



私はインドネシアの東ジャワから来ました。当て字で書けば「伝仁和優治」です。私が武庫之荘教会に着任してから二年目になりました。日本に来てから十年半ぐらいずっと熊本で過ごし

ました。九州と関西で司祭職をさせていただいて、いつも感謝しています。私の大好きな言葉「出会いは奇跡」を実感しています。新しい出会いにおいて初めは会話するのが難しい時もありますが、尊敬を持って、その人の話に耳を傾けていると、だんだん笑って打ちとけて話ができるようになります。仲良くコミュニケーションができるようになる場合もありますし、いろいろな意見を聞いて私に出来ない事は出来ないと伝える場合もあります。

人は悲しみや悩みがある時、祈りの中で神様に自分の苦しみについて話すことも大切ですが、信頼できる人に自然に自分の心から出る言葉で悲しみや苦しみについて話し、分かち合うコミュニケーションも必要です。話している内に自然と笑顔も生まれ、心の癒しへとつながっています。司祭である私を信頼して自分の悩みや苦しみを話してくれる方々と接する時にも、両方の立場でよく理解できるようにになりました。これから、どうぞ、よろしくお願いいたします。

今だからこそ

障がい者委員会 石井 望



委員会は5年目です。定例会43回の内、最近の3回は「リモート会議」です。下に紹介する委員会の「担う役割」や「目標と課題」に沿って、年間計画を立てています。

大阪教区内で担う役割

1. 聖書理解を深め、「障がい者」「障がい」を通して、大阪教区カトリック教会自体、行事、カトリック関係グループ、個人の存在や活動の福音化が推進され、さらに社会の福音化のために働くことができるように、奉仕する。
2. 大阪教区の社会福音化部門をはじめ、広報委員会、典礼委員会などと連携しながら1.を推進する。
3. 教区内の障がい者関連団体・ボランティアグループ、個人の連携を支援する。

「目標と課題」抜粋

教区、宣教司牧地区、小教区などで、障がいの理解、障がい者の権利、合理的配慮の取り組みなど、司牧者、信徒の研修学習を推進する。今年度は秋の「病者・障がい者とともに歩むミサ」は中止の公算が大きい。そこで、関連グループのネットワークづくり、教区の広報やシナピスを通して情報を提供し、理解を深めることに力を入りたいと考えています。みなさんとの新たな協力関係をつくるチャンスかもしれません。

わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。



船員司牧担当 エリック・パウチスタ・デ・グスマン

この2年間、大阪教区の「正義と平和」の担当として皆さんに大変お世話になり、心から感謝しております。このたび、船員司牧の担当の任命を頂き、皆さんの力をまたお借りしたいと思います。よろしくお願いいたします。

船員司牧は、カトリック教会が海で働く人たちに提供するおもてなしとパストラル・ケアのことです。海に囲まれているほとんど国々には、航海士と漁師たちとそれぞれの家族がいれば、国籍や文化を問わず、彼らをお世話する人たちもいます。

港に着くと、航海士と漁師たちは慣れない環境、わからない言葉、自分の国と違う通貨や文化などによく直面しています。彼らにとって、馴染みのあるところは「ステラ・マリスセンター」です。自分を歓迎して、世話をしてくれる場所があれば、どんな港でも、彼らはみんな安心できるでしょう。

戦後 75 年 6.23 沖縄・慰霊の日にこころあわせて 那覇教区 ～追悼式 平和祈願ミサ～ 大阪教区

Okinawa Lives matter ヌチドゥタカラ

山田圭吾（カトリック那覇教区信徒）



「沖縄慰霊の日」、カトリック那覇教区では例年全体で集まる追悼ミサ後、魂魄の塔まで祈りながら歩くが、コロナ禍のためできず、予定されていた日本司教団も来られず、教区内全教会で個別にミサを捧げ、正午に全県一斉に黙祷を共にした。

日本カトリック司教協議会会長の高見三明大司教からのビデオメッセージには「戦争を起こすのは人間だが、戦争を許さない努力ができるのも人間だ」（沖縄県平和祈念資料館）との言葉が取り上げられていて、これからの活動への大きな励みになった。ミサを司式したウェイン・バートン司教は、家族、特に次の世代に対する責任として「Okinawa lives matter（沖縄の命は大事）命どう宝（命こそ宝）」であると訴えた。旧知の皆さんと会えない寂しさはあったが、同じ時、同じ意向で祈れて良かった、これまでもを振り返る良い機会となったとの声もあった。沖縄からの呼びかけに応え、



全国各地で教派を越えて祈りを捧げてくださり、大きな慰めと喜びを与えられ、「沖縄」が皆様の祈りに支えられていることを実感させられた。

平和の礎には遺族や関係者が多く訪れ、刻銘された肉親の名に触れながら祈りを捧げる姿に、平和への努力が更に必要だと思わされた。



叫びましょう！！命どう宝

カテドラル聖マリア大聖堂（小聖堂）

司式：前田万葉 大司教

酒井俊弘 補佐司教 赤波江豊 事務局長

松浦謙 社会福音化部 正義と平和担当



司教団メッセージの朗読

ミサは「平和祈念・太平洋戦争犠牲者 2000 万人の追悼ミサ」として捧げられました。那覇教区の『「沖縄慰霊の日」にこころをよせて、『平和を求めるおっきな輪！』を全国、そして世界へ広げませんか』の呼びかけに応えたものです。開祭の歌は「命どう宝」。ミサの初め、前田大司教は「歌いましょう 命どう宝 慰霊の日」の句を披露、「叫びましょう 命どう宝 慰霊の日」と繰り返して平和への熱い思いを示し、「戦争をしないよう、戦

争が起こらないよう、祈りながらミサを捧げましょう」と呼びかけました。ミサの最後に、この日に合わせ司教団が発表した「戦後 75 年日本カトリック司教団平和メッセージ すべてのいのちを守るため 平和は希望の道のり」を大司教と酒井司教が一言一言思いを込めて朗読、正午には皆で黙とうを捧げました。

8 月 6 日、9 日、15 日は日本人の記憶に刻まれています。この 6 月 23 日はどちらかという等閑視されてきました。このミサに参列することにより、沖縄県民とともに沖縄戦を思い起こし、平和への気持ちを新たにしよう励まされました。この日の存在が日本全体に少しずつ広がっていくことを願いながら、派遣の祝福を受けました。



主の平和！

平和、それは希望の道 コロナ禍の中でも平和旬間を

対話、和解、エコロジカルな回心



「キリストの平和」のパンデミックを！！

2020 教皇フランシスコ平和の日メッセージより

「今年はコロナ禍の影響で、話し合うこともできないし、いつものような企画は難しいわ」という声を聞きます。でも、きっと何かできることがあるはず。『こんなことができるかも！』をお届けします。

読んできてくださいますか？

戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。

これは一九八一年二月二十三日、二六日に「平和の使者」として来訪された、教皇ヨハネ・パウロ二世が広島で述べられたことばです。これは「平和のメッセージ」として日本のみならず、世界中に向けて発信されました。過去の戦争を振り返り、二度と繰り返してはならないと誓い、具体的な行動によって証しされるものであります。それを受けて日本の教会は、翌年一九八二年の八月六日から十五日までを「日本カトリック平和旬間」と定めました。司教団は毎年会長による談話を発表します。わたしたちが具体的に平和を祈り、考え、行動するための指標となります。特に今年は戦後七十五の節目です。六月二三日の沖縄の慰霊の日には那覇教区が全国の教会に呼びかけ、アジア太平洋戦争犠牲者を二〇〇〇万人のために心を合わせ祈り、日本カトリック司教団が「平和メッセージ」を発表しました。ぜひ読んでくださいますか？



「ちょっとその前に！神父さま教えてください。『平和旬間』っていつから始まったのですか？」

「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。」

5歳～小・低学年



☆「ぼくのこえがきこえますか」 戦争ってなんだろう？

文・絵：田島征三 童心社 2012年

☆「せかいいいちうつくしいぼくの村」 アフガン内戦

文・絵：小林豊 ポプラ社 1995年

☆「へいわってすてきだね」 沖縄戦 作：安里有生 絵：長谷川義史 ブロンズ新社

☆「紅玉」 強制連行

文：後藤竜二 絵：高田三郎 新日本出版社 2005年

☆「武器より一冊の本をください 少女マララ・ユスフザイの祈り」

著：ヴィヴィアナ・マツツア 訳：横山千里 金の星社 2013年

☆「ふたりのイーダ新装版」 ヒロシマ 著：松谷みよ子 講談社 2006年

☆「お母さんの生まれた国」 カンボジア難民 著：茂木ちあき 絵：君野可代子 新日本出版社 2017年

☆「PEACE AND ME わたしの平和 ノーベル平和賞 12人の生きかた」

著：アリ・ウィンター 絵：ミカエル・エル・ファティ 訳：中井はるのかもがわ出版 2019年

小・中学年～高学年



「そうか、平和を考えるための大事な期間なんですね。どんなことができるかな？」

例え、戦争と平和をテーマにした絵本なんかを、図書館で借りてきたりして、後で感想をわかちあってみてもいいかもしれません。一部だけ紹介します。

中学生以上

☆「あそこはフリードリヒがいた」 ユダヤ人迫害 著：ハンス・ペーター・リヒター 訳：上田真而子 岩波書店 2000年

☆「銃声のやんだ朝に」 第一次世界大戦 著：ジェイムス・リオーダン 訳：原田勝 徳間書店 2006年

☆「いのちへのまなざし」【増補新版】 すべてのひとのいのちを大切に 著：日本カトリック司教団

カトリック中央協議会 2017年

その他にも



☆毎年この時期になると、テレビでも戦争と平和特集の番組が放映されます。

小教区ごとに各家庭で同じ番組を視聴し、家族で感想をわかちあったり、それを教会に持ち寄って冊子にまとめてみたり、平和のメッセージにして、掲示板に貼りだして、共有したり。集まれなくてもできそう。

☆オンラインをつかって共通テーマについてわかちあうことだってできるね！



☆「平和」について書かれている聖書の箇所を探してみよう。

意味の分からないところは神父さまに質問！！

☆3 密対策を万全にしてDVD鑑賞をするのはどうかな？

数年前、岸和田地区のある小教区では数回に分けて映画を上映してたね。これならできるかも。

☆平和を願いながら、折り紙で鶴を作りミサで捧げるのもひとつ。これなら家でできますね。



阪神地区の武庫之荘教会では
8/9(日) 午前9時半～
平和祈願ミサ
デンニ神父作成の
DVD動画を鑑賞して
わかちあいをします。

ピンチをチャンスに！ぜひ、平和旬間の過ごし方をご検討ください。

「Okinawa Lives matter ヌチドウタカラ」

山田圭吾（カトリック那覇教区信徒）



6月23日。去る大戦の末期「ありったけの地獄を集めた」とも言われる地上戦で犠牲になった民間人を含む20万人余の戦没者を追悼する、「沖縄慰霊の日」である。

毎年、県主催の沖縄全戦没者追悼式が開催されていて、カトリック那覇教区でも今年は日本司教団を迎えて第34回平和巡礼が開催されるはずだった。

戦後75年を振り返る大きな節目の行事にするべく、準備が進められていたところ、新型コロナウイルスの蔓延と感染予防のため、大規模な催しは断念せざるを無くなり、例年、早朝6時の小祿（おろく）教会（那覇市）での追悼ミサ後、魂魄（こんぱく）の塔（糸満市）までの約16kmを祈りながら歩く従来の方式とはかなり違う形式をとることになった。

一ヶ所に大勢集まることを避けるため、教区内の全教会で午前11時にミサを捧げ、正午の時報に合わせて全県一斉に行われる黙祷を共にし、さらに日本カトリック司教協議会会長である高見三明長崎大司教からのビデオメッセージを受ける機会が設けられた。その中で「戦争を起こすのは人間だが、戦争を許さない努力ができるのも人間だ」（沖縄県平和祈念資料館）との言葉を取り上げていただいたことは、これからの活動への大きな励みになることと思われた。

ミサはウェイン・バーント司教（那覇教区長）、押川壽夫司教（前教区長）、谷大二さいたま教区名誉司教、フランシス神父（安里教会主任司祭）の司式によって捧げられた。谷司教は説教の中で沖縄戦時の鉄血勤皇隊の悲惨な状況を読み上げ、命の大切さを学ぶことの必要を述べた。

ウェイン司教は、我々の家族、特にこれからの世代、子孫に対する責任として「Okinawa lives matter（沖縄の命は大事）」そして「命ドウ宝（ヌチドウタカラ/命こそ宝）」であると静かに、しかしながら力強く訴えた。

毎年のように全国から来られる方々が参加できないことや、教区内の旧知の皆さんとも共に祈ることのできない寂しさはあったものの、場所は違えど、同じ時間に、同じ意向で祈ることができてよかった、とか、これまでのやり方や様々な状況を振り返る良い機会ともなった、との声もあった。また、今回の取り組みに賛同して下さって全国各地で教派を越えて祈りを捧げてくださり、中には「すべての戦争犠牲者と沖縄の平和のため」と沖縄慰霊の日を地域に訴えるスタンディングを駅前等で開催して下さった方々もいて、大きな慰めと喜びを与えられ、「沖縄」が皆様の祈りに支えられていることを実感させられた日ともなった。

ミサ後、教区平和委員会のメンバーが全国から寄せられた千羽鶴を携え、魂魄の塔で祈りと共に捧げた。いつもは観光客や修学旅行生が訪れる平和の礎（いしじ）でも、例年のように県内外各地から遺族や関係者が多く訪れていて、刻銘された肉親の名に触れながら祈りを捧げる姿に、平和への努力がさらに必要だと思われた一日だった。



薬物依存症の原因は薬物ではない？！

障がい者委員会 石井 望

昨年 9 月の教区行事「病者・障がい者とともに歩むミサ」の堂内献金は、薬物依存症のリハビリ施設、神戸ダルク・ビレッジに寄付されました。最近芸能界のタレントが逮捕されたこともあり、マスメディアで薬物依存について取り上げられることが多くありました。NHK ハートネット TV など理解を深めさせる番組もある一方で、偏見を助長する内容も多いように感じました。大阪教区の障がい者委員会では、ダルクのスタッフに来てもらい委員の学習会をしました。

学習会では、ドイツの教育番組が制作した“Addiction”, <in a Nutshell>というアニメが紹介されました。薬物依存の理解の枠を広げてくれるもので youtube で英語で見ることができます。当稿の表題は、そのアニメが問題提起していることです。

人は生まれてから様々な人との関係を作りながら成長してきた。しかしその絆が絶たれて孤立した時、孤独を忘れさせてくれる何かに依存するのだ。アルコール、セックス、スマホやギャンブル、市販されている薬等々。その中でも格好の依存対象となるのが薬物。アニメでは、病院でのモルヒネの連続使用でも依存症にならないこと、近年のラットを使った実験や、ベトナム戦争のときの兵士の薬物依存と帰還後の事例のデータなどをもとに、周囲の理解や絆がしっかりあれば、孤独を忘れるために依存する必要はなく、回復の道が開けることを実証する。現代のわたしたちは、人との絆が希薄になり、孤独に曝されている。また一度薬物依存になった人は、犯罪者として「保護」されて孤立し、個人の問題として克服することを求められる。「社会復帰」したのちもレッテルを貼られて様々な拒絶や人間性を否定されるような経験をし、さらに孤独を経験して * スリップを繰り返す。

以上がアニメの概要です。薬物依存の原因は薬物そのものではなく、孤独が原因だ、依存症を個人の問題として孤立させる社会や人々の理解が大きな問題であり、人と人の絆を育てる社会を「回復」することが早急に取り組むべき課題だと説きます。そして依存症(アディクション)の対極は、絆(コネクション)なのだと。

ダルクは、このような理念で取り組んでいるとのことでした。また、欧米豪などこのような理念に基づいて、政策として、依存症者を企業が優先的に採用したり、地域社会で依存症者の回復を応援する体制が作られているそうです。

障がい者委員会では、障がいの理解を「医学モデル」から「社会モデル」「文化モデル」へ変えていき、そして「福音モデル」の学習を続け、理解を深め、皆さんにも紹介し、「依存症」については、関係者にも寄稿していただこうと考えています。



*スリップ 「病気の再発」薬物依存者が薬物の使用などを再びしてしまうこと。

(全国薬物依存症者家族連合会 HP より引用)

子どもたちに 伝えたい平和



「平和の絵本講座」ライブ やってみたいな

学童保育指導員 とりいしん平

私は、学童保育所でアルバイトをしながら、神学部で学んでいる 63 歳のおっさんです。3 年前、定年退職するまでは滋賀県にある基督教の小学校で 36 年間、教師のふりをしていました。教師のふりとは、平和と愛と人権と学びの魅力を伝えることが十分にできなかった後悔と、最後まで私が学校文化に馴染めなかったことに対する懺悔の思いがあるからです。一方で、そんな中で自分なりにようがんばったやん、と自分をほめてやりたい思いになる時もあります。平和・人権教育には 2 本の柱が必要だと常々思っています。ひとつが歴史です。もう一方は感性です。

最後に担任したクラスは 5 年生。国語の教科書にディベート、話し合いの仕方という教材がありました。私はクラスのこどもたちに、沖縄の辺野古に基地をつくる是非を徹底討論してもらいました。基地建設賛成派と反対派にわかれて。それぞれに自説を展開するのに必死になって、国際情勢や沖縄の歴史や自然環境の情報にあたっていました。もちろん、私の考えはおくびにも出しません。こどもたちは、チャイムがなって授業が終わっても、廊下に出て激論の続きを戦わせていました。賛成派にしても反対派にしても、きっと沖縄・琉球の歴史と日米地位協定に至る現代史を、中学生になっても高校生になっても意識してくれることでしょう。それを望みます。

去年、神学部のゼミ旅行で沖縄を訪ねました。沖縄戦跡をめぐり、ガマに入り、辺野古新基地反対の抗議船にも乗せてもらうという密度の高い旅程の中で、同行の若い仲間といろいろと対話を重ねました。驚いたことに、多くの若者が沖縄について、中高生の時に何も学んでこなかったという衝撃の事実でした。歴史を風化させてはならないと切に思いました。

また、一方低学年を担当することの多かった私は、歴史以前の感性に働きかける絵本や歌の重要性を痛感してきました。理屈ではなく、快・不快、喜怒哀楽、人としての感じる心、魂と一緒にふるわせることがとても大事だと考えてきました。

絵本 『ドームがたり』

作:アーサー・ビナード 画:スズキコージ 玉川大学出版部

『イモムシかいぎ』

作・絵:市居みか 小学館

『こいぬのうんち』

文:クォン・ジョンセン 絵:チョン・スンガク 訳:ピョン・キジャ 平凡社

紙芝居 『ちっちゃいこえ』

脚本:アーサー・ビナード 絵:丸木俊・丸木位里「原爆の図」より 童心社

・・・まだまだあります。一度、大人のための「平和の絵本講座」みたいなライブやってみたいです。





曼珠沙華と紀州の茶粥 ③

～ 江戸時代の和歌山のキリシタンとハンセン病と「非人村」 ～

石井 望

☆ 和歌山で初めてのキリスト教会と病院

和歌山にキリスト教の教会が一番初めにできたのは、1606年です。高野山を始めとする寺院勢力が強大な紀州にはイエズス会の宣教師は踏み込まなかったそうですが、江戸時代の初期に浅野^{よしなが}幸長が和歌山初代藩主となった時、フランシスコ会士を招聘して、城下に教会と病院を建てさせたのが始まりです。

☆ フランシスコ会の療病院とハンセン病

当時のフランシスコ会は、教会と同時にハンセン病の治療を含む療病院を各所に造りました。浅野幸長はかつて京都で自分の「皮膚病」を治療してもらったのが縁で、自らは洗礼を受けなかったものの、家臣には元小西行長の家臣200人を始め多くのキリシタンを抱え、城下の教会と病院を保護しました。また、幸長はハンセン病患者を慰問するために大坂の療病院によく立ち寄ったそうです。彼自身がハンセン病だったと考える人もあります。いずれにせよ和歌山の療病院ではハンセン病患者の治療もしていたと考えるのが妥当でしょう。

☆ 和歌山のハンセン病患者とキリシタン

和歌山に限らず、キリシタンの中にハンセン病の人は多くあったようです。療病院での治療がきっかけであったり、キリスト教の教えへの共感であったり、一般社会のような差別のない教会生活のためであったり、彼らにとってキリスト教は「人として生きる」道でした。宣教の主体となったハンセン病患者も多く知られています、

☆ キリシタン禁制の中で

二代藩主の浅野^{ながあきら}長晟の時、1614年に教会は閉鎖されますが、積極的キリシタン迫害はなかったと言います。浅野氏が広島に転封し、徳川頼宣藩主に代わってからも同様だそうです。幕府の方針に従い和歌山城下で本格的にキリシタン弾圧が始まるのは、1630年ごろ、「吹上非人村」の80人のキリシタンが「御仕置」を受けたと後世の記録があります。この80人にはおそらく非人村預けとされるハンセン病患者が含まれること、「御仕置」は処刑ではなく追放刑と考えるのが妥当と思われます。キリシタン処刑の明確な公式文書が見つからないからです。

和歌山城下の治安を維持する警察や刑吏、貧困者や病者を世話する役割を担った「非人村」の人々がいなくなったので、藩主は新たな「非人村」を作ります。「吹上非人村」の再興のために、大坂の転びキリシタンの一族を招聘します。

今回は、新規「吹上非人村」、江戸時代の治安維持、監視制度と転びキリシタンの関係についてです。

参考文献：ムニョス報告「キリシタン研究第11輯」高木正雄著

安藤精一『近世和歌山のキリシタン』「和歌山の研究3」所収

和歌山県史、藤本清二郎「城下町世界の生活史」、『牢番頭家文書』『城下町警察日記』ほか

「エコロジカルな回心」とは？



＊先月号でプラスチックが東南アジアの人々の健康を脅かし、海洋生物を苦しめていることを紹介しました。私たちが口にする魚も小さなプラスチックを体内に蓄積しているとのこと。また、乱獲によって海が荒らされ、絶滅しかけている魚もいるそうです。どうしたらよいのだろうと思って読んでいた本の中で、危機感を募らせた漁師らによるこんな取り組みが紹介されていました。

「南三陸戸倉っかき」が、ASC 国際認証を日本で初めて取得！

2011 年の東日本大震災で大きな打撃を受けた宮城県三陸町の戸倉地区のカキ養殖業。養殖のためのいかだや必要な設備、道具がすべて津波で流され、廃業に追い込まれた。

『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』
一般社団法人 Think the Earth、
紀伊国屋書店、2018 年より

実は、これまで養殖業は海に養殖場をつくって行うため、海的环境に悪影響を与えることもあった。



ゼロから再スタートするのなら、元に戻すのではなく自然になるべく負担をかけない養殖業を目指そう！

養殖のために使ういかだを
3 分の 1 に縮小

すべてのカキに栄養や酸素が行き渡り、従来の半分以上の期間で出荷可能なサイズに成長

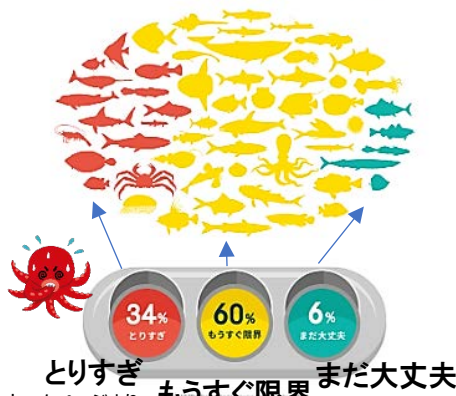
震災被害という大きな不幸を、
「持続可能な養殖業」に転換する
チャンスに変えた。

世界の魚の 3 割が「とりすぎ」です。

身近にこんな取り組みがあるんだね。
でも「持続可能な養殖業」ってどういうこと？海は無限の宝庫でしょう？



それがね、これまで魚を取りすぎてしまっ
て、世界の魚の量が 1970 年頃から半減して
るらしい。魚が少なくなっているんだって。



図：MSC ホームページより
(<https://www.msc.org/jp/what-we-are-doing/ourapproachJP/oceansatrisk>)

えっ大変！海の問題はプラスチックだけじゃないの？このままだと、魚も食べられなくなるし、世界中の漁師さんたちの仕事もなくなっちゃうんじゃない？！



うん。だから、今、魚や環境を守りながら、漁師さんたちの生活も守ることができる方法が模索されているらしい。



たとえばどういうこと？

たとえばこんなこと：海のエコラベルに注目！



MSC 認証とは、MSC (Marine Stewardship Council : 海洋管理協議会) の厳正な認証規格に適合した漁業で獲られた持続可能な天然の水産物にのみ認められる証である。天然の水産物ではなく、養殖による水産物を同様に認証する仕組みが「ASC (Aquaculture Stewardship Council : 水産養殖管理協議会)」の認証制度。

MSC ホームページ (<https://www.msc.org/jp>)、WWF ホームページ (<https://www.wwf.or.jp/>) より



このマークがついていたら、海の資源や、魚を獲って生活している人を守る方法で獲られた魚ってことがわかるんだね。

うちは食べ盛りがいるし、お魚って高いし、正直、新鮮で安いのが手に入ればラッキーって思ってた。こんなにも沢山のいのちや誰かの生活がかかわっているとは思わなかった。反省。



またさ、南三陸のカキ漁師さんたちが、どうせゼロから始めるならって、元に戻すんじゃなくて、新しい方法に踏み出した勇気もすごいな！結果、カキ一つひとつを丁寧に育てられるようになり、働き方も変わって、家族との時間が増えたんだって。こういう発想って、コロナ後の社会を作っていくときのヒントになるかも！





みなさんがご存じのことを教えてください

たとえばこんなこと

1. 環境のためにしていること、昔から言い伝えられている知恵

2. 環境保護のためのいろいろな動き

☆お名前またはニックネーム _____

☆連絡先（メールアドレスや電話番号など）

☆投稿方法 FAX : 06-6920-2203 / メール : sinapis@osaka.catholic.jp

QR コード *

* QR コードの読み込みには、スマートフォンなどで QR コードリーダーをダウンロード
することが必要です。

☆締め切り 2020 年 7 月 20 日（月）まで





みんなの けいじばん



医療用防護ガウン 大好評！！

先月このコーナーに掲載した医療用防護ガウン*の製作。5月のスタートから6月末まで、17人の難民・移住者が参加し、合計2000枚超を、福井赤十字病院、浅香山病院、うえに生協診療所などの医療機関や介護施設に送りました。作業に参加している難民・移住者の方々は、やりがいを感じ、感染予防に努めながら積極的に取り組んでいます。大きなご支援と希望をいただいた「からしだね」からのご寄付は終了します。これからはすべてシナピスからの持ち出しになりますが、何とか方法を探り、しばらく続けていきたいと思っています。

このガウンプロジェクトのために、個別に、またいくつかの団体からご寄付・助成をいただきました。

みなさまのご協力とご支援に、心より感謝申し上げます。

第2波の備えとして

<寄贈先の医療機関より>

- ・コロナ第2波のために備蓄します。
- ・いろいろな体形に合ったガウンがあったら嬉しいです。
- ・練習で着たガウンを実際にまた使わなければならないくらい足らなくて困っていたので助かります！

欲しかったのは、「やりがい」と社会参加

<作業する難民・移住者の声>

- ・最初はとても難しかった。でも慣れてからは楽しいです。
- ・初めは一日に10枚作れたらいいほうだったのに、今では30枚ぐらい作る時もありますよ！
- ・立ち仕事なので腰は痛いけれど、誰かの助けになっているというのがとても嬉しいです。
- ・喜ばれていることを直接感じる事ができるのが嬉しい。できればこの仕事を続けたいです。

教えてください

使い捨て医療用防護ガウンをお分けします。

- ガウンを必要な枚数寄贈します。ガウンの質や使い勝手をお確かめの上、追加でご注文いただけるようでしたら、材料費、郵送料等のご負担を相談させていただきます。
- ・ガウンはごみ袋2枚で作っています。
- ・LサイズとMサイズがあります。
- ・医療用なので、何人かの目で検品し、衛生に細心の注意を払っています。



シナピスのみなさんへ



手作りのガウン！！
ありがとうございました。
感染予防に努め
地域医療に貢献します。

うえに生協診療所

職員一同

うえに生協診療所より
いただきました。

探しています

作業できる広い空間を探しています。

- 教区内の会議室を作業場として使っていますが、長テーブル2つを1人が使って作業をするので、場所が足りません。
- ・コロナ禍で困っておられる難民・移住者、技能実習生がまだまだいらっしゃいます。より多くの方が作業できるよう、空きホールや会議室などがありましたらお貸しください。
- ・目安として1人あたり1.8㎡ぐらいが必要です。最低4～5人が作業できたらありがたいです。

*医療用防護ガウンプロジェクトとは？

京都の「社会福祉法人ミッションからしだね」との共同プロジェクトです。このプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症の流行によって困窮している人への支援を目的としており、シナピスの難民・移住者にもお声がけいただきました。医療用防護ガウンを作り、その枚数に応じて「からしだね」からご寄付をいただくものです。ご寄付は材料費と難民・移住者の生活費に充てられます。

「あんなこと、こんなこと」「教えてください」「探しています」、ともにFAXかメール、右のQRコードからご投稿ください。QRコードの読み込みにはスマートフォンなどでQRコードリーダーのダウンロードが必要です。

☆投稿FAX：06-6920-2203 メール：sinapis@osaka.catholic.jp

☆締め切り：2020年7月20日（月）まで



沖縄とわたしたち

第23回「体験を伝えるのは誰か」

6月23日 沖縄慰霊の日

沖縄での正規戦が終結した6月23日は「慰霊の日」、沖縄県では今年規模を縮小し、摩文仁の平和祈念公園で「沖縄全戦没者追悼式」を開催しました。

玉城知事は平和宣言で「沖縄戦で得た教訓を正しく次世代に伝え、平和を希求する『沖縄のこころ・チムグクル』を世界に発信し、共有すること」を呼びかけ、うちなーぐち（沖縄の言葉）で「これからの人類の未来には平和と喜びあらんことを祈り続けます」と締めくくりました。



ぼくたちも
ぼーっと
してられない

沖縄の高校生
高良さんは戦争体験を
しっかり引き継ごうと
している



体験者の思い

「慰霊の日」を前に、沖縄タイムスと朝日新聞が合同で沖縄戦体験者にアンケートを実施、回答者の平均年齢は84.8歳、71.8%の人が沖縄戦で家族を亡くしておられます。以下、アンケート結果から。

- 62. 5% 体験が次世代に
あまり伝わっていない・全く伝わっていない
 - 74. 3% 沖縄戦の実情が本土に
全く伝わっていない・ほとんど伝わっていない
 - 58. 8% 沖縄が将来戦場になる可能性
大いにある・ある程度ある
 - 76. 8% 日常生活で沖縄戦を思い出すこと
よくある・時々ある
- アンケートの中で「誰にも話していないことがある」と答えた方は4分の1に上りました。

平和の詩「あなたがあの時」

首里高校3年 高良朱香音さん作 抜粋

「懐中電灯を消してください」
真っ暗になったその場所は
あまりにも暗い
私はあの時を想像する

あなたが青春を奪われたあの時
あなたはもうボロボロ
家族もいない 食べ物もない
ただ真っ暗なこの壕の中で
あなたの見た光は、幻となって消えた

あなたが声をあげて泣かなかったあの時
あなたの母はあなたを殺さずに済んだ
あなたは生き延びた

あなたがあの時
前を見続けてくれたおかげで
この島は今 ここにある

あなたがあの時
勇気を振り絞って語ってくれたおかげで
私たちは知った
永遠に解かれることのない戦争の呪いを
決して失われてはいけない平和の尊さを

ありがとう

あなたが見つめた希望の光
私は消さない 消させない

月桃の実



歴史に触れよう！

「地上戦の日々④ 慶良間諸島での出来事」

米軍は本島攻撃直前、那覇西方にある慶良間諸島に上陸しました。島々には陸軍の特攻艇マルレが配備されており、その洞窟格納庫を掘削するために住民が動員されていました。秘密基地を建設させた住民に対する軍の監視は厳しく、軍民の「共生共死」が要求されました。軍により米軍への恐怖を煽られ、捕虜になることは絶対に許されない状況の中、追い詰められた住民は死を選ばざるを得ず、家族で集まって手榴弾、かみそり、石や木の枝を使って死んでいきました。亡くなった人は570人に上るといわれます。軍が存在しなければこの出来事は起こらず、集団死には「軍の関与」があったと教科書に記述されていましたが、2008年の教科書検定でこの文言は削除されました。この時沖縄では県をあげての抗議集会が開かれ、記述は復活しました。渡嘉敷島の吉川嘉勝さんは手榴弾が不発に終わった時、「生きられる間は生きるべきだ。命どう宝やさ」と叫んだ母の言葉によって生き延びました。座間味島の宮里洋子さんは、カミソリを持つ母に「死ぬのは嫌だ」と暴れて壕から飛び出して助かりました。島々では今も慰霊祭で「反戦平和と史実の継承」を誓い続けています。（沖縄タイムス2015年3月20日、新聞うずみ火同年4月16日記事より作成）

憲法が変わったらどうなるの？ 第20弾

憲法は祈り



夏が来れば思い出す,,,,,,「戦争と平和」

え、夏にしか思い出さないの？



だって、8月6日と9日は広島と長崎に原爆が投下された日だし、
15日は「終戦記念日」でしょ。



第二次世界大戦で言えば1939年9月からはじまったこの戦いは
1945年の8月まで毎日続いていたんだよね。日本では特に、アメリカが
原爆を投下されたことで多くの方が犠牲になったこともあって、祈り、考
える機会にはなっているけれど。季節が過ぎていくように、「戦争を考える」
ことも8月が終わると通り過ぎていくんじゃないかなあ？



そうか、戦争を体験した人たちは、75年以上も毎日、その傷を背負って
生きておられるんだって。イベントやセレモニーだけで終わらせてはいけない。

うん。

先日、映画監督で甲南女子大学教授の池谷薫^{いけや}さんからメールをいただいたの。
池谷さんは戦争をテーマにしたドキュメンタリー映画「蟻の兵隊」(2006年)を
手掛けられた。元日本兵の奥村和一さんが自らの戦争体験を告白する映画。

2006年の8月15日「終戦記念日」には若者を含む多くの人が、映画館を訪れたそうよ。
そして、あれから15年経った今年、池谷さんは再度この映画の全国ツアーをすることを
決めたんだって。(詳細は別紙をご覧ください)



映像の中で奥村さんは

「善良な人が殺し合いをしなければならない。自分が殺されるか相手が殺されるか。これが戦争だ。」
とおっしゃっていた。2011年に亡くなるまでずっと、国の戦争責任を問い、私たち次世代
にその愚かさを語り続けられた人だよ。

今は、憲法によってなんとか守られているかのようだけど、
憲法を無視して、日本で暮らす人たちのいのちより、軍備費に膨大なお金を投じている現政権。
さらに憲法を改正して、自衛隊をより戦争ができる軍隊にしていくことを大きな目標に
掲げている。戦争は突然、始まるかもしれないね。



憲法は戦争犠牲者の願い、戦争を体験した人の祈り、
思いが詰まったものなんだよね。
それを、足で踏みつけるようなことは絶対にしたらだめだ！！



国際基督教大学学務副学長の森本あんりさんが

2016.5.5.朝日新聞連載の「憲法を考える」でね

戦争が終わって、焼け野原となったあたりをみまわし、慰霊碑が立てば信仰や宗派に関係なく、
だれもがその前で頭を垂れた。憲法が制定された当時の日本では、キリスト教徒も仏教徒も無神
論者も、みんなが祈っていた。人々は祈ることしかできなかった。

その気持ちが、憲法には込められている。って

元最高裁判判事的那須弘平さんも憲法は「祈りの書」「懺悔と謝罪の書」だとおっしゃっていた。

「憲法は祈り」なんだね

ネリさん母子裁判 再開します！

7月30日 午後2時～ 大阪高裁 別館82号法廷

(コロナウイルス感染防止対策のため)

間引き傍聴です)

ご寄付のお願い

○こども基金期間限定のキャンペーン～8月末まで
ご寄付、ご協力をよろしくお願いいたします。

支援の必要な団体：申請は随時受付しています！

詳細はHPをご覧ください。

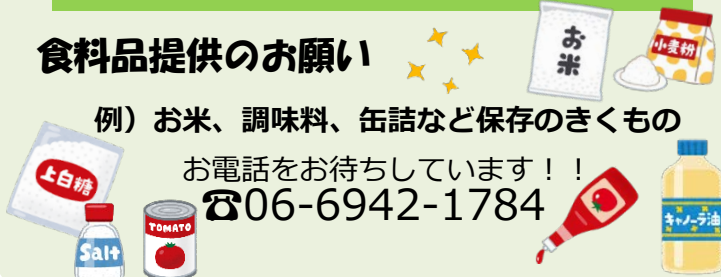
○難民移住移動者支援も引き続きよろしくお願いいたします。

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

食料品提供のお願い



例) お米、調味料、缶詰など保存のきくもの

お電話をお待ちしています！！

☎06-6942-1784

◆ニュースレターは、HP 上でも掲載しています。

⇒<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

あとがき

移住者のために、週一回無料でランチ弁当を提供しているスリランカ料理店がある。今回シナピスの移住者と私たちにも提供してくださり、みんなでいただいた。スリランカ、南アフリカ、フィリピン、ブラジル、日本、多国籍の人たちがテーブルを囲んだ。南アフリカ出身でミュージシャンのTさんが7人でユニットを組んでいた時に作ったCDをBGMにして、スパイスの効いたカレーに舌鼓を打った。優しく美しい歌声を聴いていてふと見るといつも陽気なTさんの顔がにわかに曇り、涙を拭くようなしぐさを見せた。歌を聴きながら家族や友人を思い出したのかもしれない。一点をみつめ、黙々とカレーを口に運ぶ姿が、痛々しかった。ここに集う移住者は、彼と同じように、遠くに家族を思い、心がつぶれそうになるのを必死で堪えている。だが、どうしてこんなにみんな明るく顔をあげて日々を生活しているのかを振り返ると宗教宗派を問わず、みなそれぞれのことで心から祈っているからだ。

祈りは人を変えていく。祈りは力だと彼らをみて思う。わたしたちもまた、彼らの平安を心から祈る。昨年の夏まで支援していたマケンガさんと家族も平和であるように、繋がっている空を見ながら祈ります。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄鶴見緑地線玉造 1 番出口より 約 800m

車でのお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



忘れない＊あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



2020年 7月 の 案 内

★印 カトリック関係

新型コロナウイルスの影響で集会等が中止される場合がありますので事前にお問い合わせください。

2020年 祈祷の信徒 祈りの意向 7月

世界共通の意向： 家族
現代を生きる家族に愛と尊敬がとれない、ふさわしい助言が与えられますように

日本の教会の意向： 新型コロナウイルスの感染終息を願って
感染症に苦しむ人に必要な医療が施され、医療従事者や病者に寄り添う人の健康が守られ、
感染の終息に向けてすべての人が真剣に取り組めますように

1	水	●講演会「奄美大島・沖縄島・宮古島・石垣島・与那国島に自衛隊・ミサイル部隊はいらない」 ■場所：エルおおさか南館72 18時半～ 講師：奥間政則さん(沖縄ドローンプロジェクト分析責任者) 資料代800円 主催：南西諸島への自衛隊配備に反対する大阪の会 メール：nojieitaihaibimiyako@gmail.com
4	土	●講演会「資本主義の終わりか、人間の終焉か？」 ■場所：中央北生涯学習プラザ大ホール 14時～ 講師：斎藤幸平さん(大阪市立大学大学院経済学研究科准教授) 参加費1000円 zoom参加費500円 主催：斎藤幸平講演会実行委員会 TEL090-5132-0028(小柳久嗣) ✉saitokohei0704@gmail.com ●上映会「きけわだつみの声」 ■場所：エルおおさか5階視聴覚室 13時開場 13時半～16時半 資料代500円 共催：設置理念に則ったピースおおさかを取り戻す会 関西わだつみ会 TEL080-3822-0404(ピースを取り戻す会) ✉regain_peace@yahoo.co.jp
11	土	世界人口デー
12	日	●とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和 2020関西のつどい ■場所：ヴィアール大阪4階ホール 14時半開場 15時～ 講演「民主主義を守るために—安倍政権とメディア」 講師：望月衣塑子さん(東京新聞社会部記者) 資料代500円 中高生・介助者無料 手話通訳あり 主催：とめよう！戦争への道・めざそう！アジアの平和 2020関西のつどい実行委員会 大阪府教職員組合TEL06-6765-1558 自治労大阪府本部TEL06-6242-2233 大阪平和人権センターTEL06-6351-0793 fax06-6358-1639 しないさせない戦争協力関西ネットワークTEL06-6364-0123 fax06-6364-5247(中北法律事務所気付) ●集会「コロナ禍とセーフティネットの非正規・外部委託化～いのちの砦・生活保護ケースワークの危機」 ■基調講演：竹信三恵子さん(和光大学名誉教授) 現場からの報告：織田隆之さん(社団法人つぐみ理事)「生活困窮者相談の現場から」 小林美穂子さん(つくろい東京ファンド)「生活保護申請援助の現場から」 記念シンポジウム：吉永純さん(花園大学教授) 桜井啓太さん(立命館大学准教授) 谷口伊三美さん(元大阪市生活保護ケースワーカー) 質疑・意見交換 尾藤廣喜さん(弁護士)「まとめと行動提起」 方式：ZOOM 参加費1000円 生活困窮者は無料 QRコードから事前の参加登録必要 主催：生活保護問題対策全国会議 問合せTEL06-6363-3310 (あかり法律事務所小久保哲郎)
14	火	★学習会「移民は棄民か！」 ■場所：サクラファミリア4階会議室 14時～16時 講師：高橋勝幸さん(信徒の会 子ども移民・元南山宗教文化研究所研究員) 申込不要 主催：カトリック大阪教区・部落差別と人権を考える「信徒の会」連絡先TEL06-6939-9771
18	土	ネルソン・マンデラ国際デー
23	木	●天皇代替わりに異議あり！関西集会 ■場所：エルおおさか南館1023号室 13時開場 13時半～ 講演「いま共和制日本を考える—基本的人権の尊重・主権在民・天皇の政治参加の否定」 講師：堀内哲さん(長野県在住) 主催：天皇代替わりに異議あり！関西連絡会 連絡先TEL090-5166-1251(寺田)
30	木	国際フレンドシップデー 人身取引反対世界デー ●原発賠償関西訴訟口頭弁論 ■場所：大阪地方裁判所 13時本館または別館前集合 14時開廷 報告集会：場所未定 問合せ：原発賠償関西訴訟の応援団★KANSAIサポーターズ TEL070-5658-9566 ●ネリ母子高裁公判 ■場所：大阪高裁 別館82号法廷 14時～(間引き傍聴) 問合せ：TEL06-6942-1784(シナピス)

